



出典『保存版 五島・特松・東浦
原今昔写真帖』(郷土出版社)

東蒲原の山奥から切り出した木材を新潟へ運搬する手段だった筏流し。昭和30年代には廃業してしまします。

▼筏(いかだ)流し



『写真アルバム新潟市の昭和』(いさ出版)

大河・阿賀野川は様々な川の幸が豊富に獲れたため、昔から川魚が盛んでした。当日は珍しい漁具も紹介します。

▼漁業・川漁

▲船頭・川舟業

昔の阿賀野川は橋も少なく道路事情も悪かったため、橋代わりの渡し船や積荷の運搬船を操る船頭さんが大活躍していました。



田辺修一郎氏所蔵

▲川砂利採取

平野部を流れる阿賀野川の川底には砂利が堆積し、昔から砂利採取が盛んでした。現在は川沿い地下から採取が続いています。



▲松浜の川漁 出典『写真アルバム新潟市の昭和』(しなのき書房)

申込方法

- 下記必要事項をご記入の上、FAX・メール・電話にて下記宛先までお申し込みください。
- 参加者を抽選にて決定し、当落結果のお知らせは申し込まれた方全員に宛てて、11月14日(火)に郵送します(※申込者へ結果が到達するのは翌日以降となります)。

申込期限 ● 2017年11月13日(月) 17時まで

参加申込書



地域再発見講座 阿賀野川ものがたり 第20回

※いただいた個人情報は、流域再生事業の実施を目的とした用途以外に使用することはありません。

フリガナ お名前	電話番号
ご住所	〒

※当日連絡が取れる携帯電話番号優先

お問合せ・お申込み先



一般社団法人
あがのがわ環境学舎

TEL&FAX 0250-68-5424 ✉ aganogawa@niigata.email.ne.jp

❗ 昔の阿賀野川の漁業などの写真を探しています!



▲田代川で焼かれたフナ
出典『写真集ふるさと
の百年豊栄・北蒲原
①』(新潟日報事業社)



▲新井郷川で投網をする風景

FM事業ではこれまで、阿賀野川流域の昔の写真を数千枚規模で収集し、未来へと伝えていくために電子データ化してきました。

ただし、漁業に関する写真を中心に、当時の川業の様子を撮影した写真などが実は少なく、もしそうした貴重な写真や当時の漁具などお持ちの方がいらっしゃいましたら、上記のお問合せ先までぜひ一報いただければ幸いです。

特集 2

シリーズ 地域再発見講座
阿賀野川ものがたり

第20回

貴重な写真を通じて学ぶ

阿賀野川の川業の 盛衰、光と影

当日は、川魚の食べ
比べ試食付き!

当日の魚種は、イ
ン時の漁獲状
況に左右され
るので、ご了承
願います。



～川砂利・漁業・
筏流し・船頭など～

横越鮭の地曳網漁 市村正氏所蔵

開催日時

2017年 **11/23** (木・祝)
13:30～16:00 (開場13:00～)

開催場所

新津地域学園 研修室305
(新潟市秋葉区新津東町2-5-6)

定員 40名

料金 **500円**
(※試食代)

(※申込方法の詳細は次ページをご覧ください)

阿賀野川沿岸集落の川業を探る
今年度のFM事業では、昭和30～40年代まで阿賀野川沿岸の各集落で営まれてきた川業に光を当て、その盛衰を丹念にたどってきました。
その過程で、沿岸集落の暮らしの変容や公害による健康被害などの光と影が、様々な貴重な証言や史料とともに浮かび上がってきました。
そこで、こうした川業をテーマとした標記イベントを開催することとしたので、興味のある方はぜひご参加いただければ幸いです!

主催 ● 新潟県 & 阿賀野川エコミュージアム構想推進協議会

共催 ● 新潟市

後援 ● 五泉市・阿賀野市・阿賀町

阿賀野川沿岸に暗い影を落とした新潟水俣病

阿賀野川沿岸で川と深く関わって暮らす人々を中心に新潟水俣病の被害が広がりましたが、これは上流で操業していた原因企業の工場が阿賀野川へ流した排水に含まれる有機水銀が原因でした。この有機水銀が食物連鎖を介して川魚に高濃度に蓄積され、それらを多食する習慣があった人々に多く被害が集中しました。



▲ニゴイなど阿賀野川の棲息魚
旗野秀人氏所有



▲患者を診察する新潟大学・橋教授
背景写真:旗野秀人氏所有



▲有機水銀が流れ出た排水口
坂東寛彦氏所蔵